

「へへっ…今日こそは俺が妊娠させてやるぜ…」

「くっ…」

「今日も淫乱シノビサービスで夜桜のこと
指名してあげたから感謝しろよ」



ゴクッ

ムッ♡

「っ…ん…くううっ♡」

「夜桜まんこに奥まで挿入^{はい}ったあつ！
おっほ…これは子宮まで届いちやっただか？」

ズッ

「っやっっ…一気に奥までっ…
かつ、体が碎けそうじゃっ♡」

「あっ…ああっ♡め、抜いてくれっ…♡
だ、駄目じゃっ…こんな死んでしまっ♡」

「今日は随分感じてるなあ…
そんなに俺のチンポが恋しかったか？」

んっ♡♡♡

あっ♡♡

ズキ♡

ズキ♡

「なっ♡そ、そんな訳っ…
なからうっ…♡」

「マンコの反応で悦んでるのが丸わかりだぜ夜桜あ…
大金払って毎日犯してやったかいがあるぜ」

くぅっ…♡

こんな下衆男のチンポで感じてしまうなんてっ…♡

はっ

んんん

はっ

グニョ

グニョ

「もう我慢できねえ…
子宮に射精すぞっ！」

「なっ♡」

「やめっ…♡子宮に射精すのだけはっ…♡
お主の子などっ…孕みとうないっ…♡」

「まだ反抗的な態度をとるのかあ…？
へっ、媚びてお願いされたら…考えてやるよ」

ム…♡

ム…♡

ギョ…♡

（媚びる…だど…♡くっ…♡
またワシにあのようなセリフをっ♡
だが…子宮に射精されて
妊娠させられるよりマシじゃ…）

女

おっ！
おっ！
おっ！

「おっ…お願いしますっ♡
これからもおっ♡ご主人さま専用のっ♡
ドスケベ忍者としてっ♡ご奉仕いたしますのでっ♡」

「どっ♡どうかっ…♡妊娠だけっ…♡
おっ…？おっ♡♡♡♡」

ドスケベ

「あっ♡おっ…♡や、約束がっ…ちがっ♡
子宮^{なか}でっ…♡でっ…♡♡♡♡♡」

「へへっ、つい射精^だしちゃったぜ…
お陰で一番濃いやつが射精^でた！射精^でた！」

ドクドク♡

ドクドク♡

「これで妊娠すりゃ
お望み通り俺専用の
忍者^{どない}として飼ってやれる」

ピクピク♡

ピク♡

♡♡♡



「ふう……このまま馴染ませてやるか」

「あっ……♡ああっ♡」

「おら、子宮にたっぷり精子がはいってるのがわかるか？
ちゃんと着床して俺の子を孕め夜桜！」

ゾクゾク

あま♡♡

ゾクゾク

ゾクゾク

あ♡♡

(ほっ♡腹が熱いっ♡
きよ…今日は危険日だというのにつ♡無理やりっ♡♡♡
だっ…♡駄目じゃ♡このままでは本当にこの男の子を孕まされてっ♡)

「ふうっ…また金玉が上がってきた…」

また子宮なかに精子ぶち込んでやる!

絶対孕ませてやるから覚悟しろよなあ夜桜…」

ぐっ…ぞう

あざ…

「♡♡♡♡♡」

あ…

















